

# 多様性と関連性のある体験 を通して 幼児期の学びを深める指導の在り方

～ 文部科学省委託「幼児教育の改善・充実調査研究」への取り組みから～



## 目次

発刊にあたって	1
多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める	2
初めての集団生活の中で様々な環境と出会う時期	3
遊びが充実し自己を発揮する時期	5
人間関係が深まり学び合いが可能となる時期	7
新しい環境に適応し人やものとのかわりを通して 「自覚的な学び」へと移行する時期	9
幼児の体験の関連性を捉える	11
平成27年度 全国国立大学附属幼稚園研究テーマ等一覧	14



## 発刊にあたって

全国の国立大学附属幼稚園は毎年その教育実践研究を紹介するリーフレットを発行して参りました。本年度は、文部科学省の幼児教育の改善・充実調査研究における、「体験の多様性と関連性、協同性を育む指導の在り方に関する調査研究」を受け、国立大学附属幼稚園49園の全教員が協力し、「多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める実践研究」を行いました。その成果をお送り致します。

幼児期は見る、聞く、触れる、作る、探す、育てるといった、感覚や行動を通じた実感を伴う直接体験を通して学ぶ時期です。幼児は、具体的な行動体験、またそれに伴う喜びや悲しみの情動体験を通して学んでいきます。ともすれば体験が偏りがちになる現代において、幼稚園は、家庭にはない広い園庭や遊具・教具などのものとかかわる体験、仲間との交流などの人とかかわる体験、更にそれにまつわるポジティブ・ネガティブな感情体験を与えることのできる場です。しかしながら限られた幼稚園生活において、体験は精選が求められます。多様な体験とはどのような体験なのでしょうか。また教育課程の中で体験をどのように関連付けていくと良いのでしょうか。体験の精選には、その体験が幼児の内面の成長につながるのかという視点で考慮されることが大切でしょう。また体験の関連性については幼稚園だけでなく、その後の小学校との接続も重要になります。国立大学附属幼稚園は各園の附属小学校との連携を持ち、小学校教員としての経験がある教員も数多く擁しており、体験の幼小接続の視点を豊かに持っています。

今回のリーフレットは、各園が蓄積してきた豊かな実践に基づき幼児期の多様な体験とその関連性についての概念モデルを提示するとともに、様々な具体的実践例を提示致しました。幼児教育の実践のヒントとして、全国で御活用頂ければ幸いです。

なお、幼稚園部会研究大会での分科会討議をはじめ、事例提供など様々な機会に協力頂いた全国の附属幼稚園の先生方、本研究の取りまとめに多大の尽力をしてくださった副園長会常任理事の先生方、更に本研究の実施に当たり貴重な御助言を頂きました先生方に、心より御礼を申し上げます。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

部会長 中澤 潤

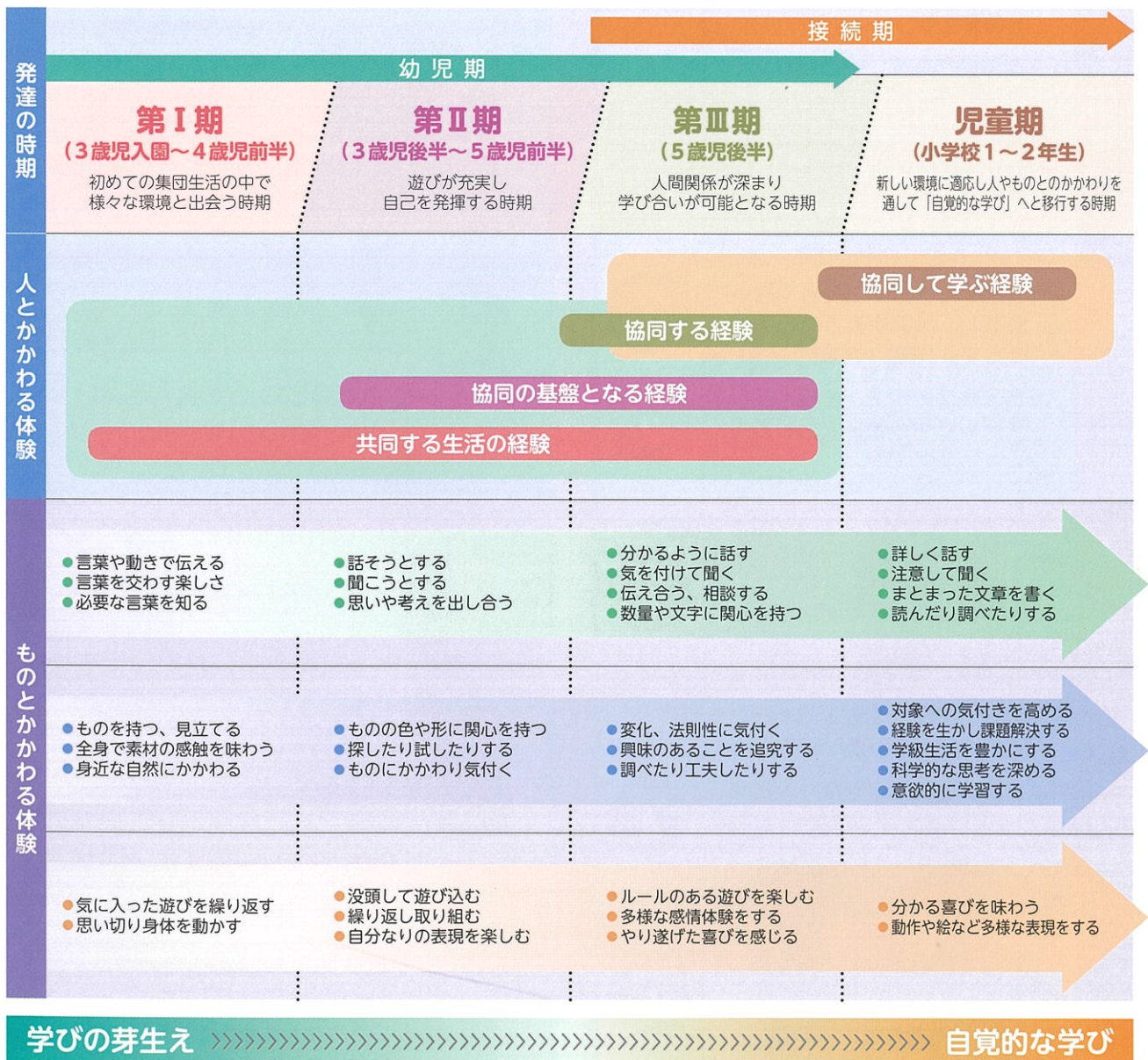


# 多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める

遊びを通じた幼児期の教育の充実につながるよう、幼児期から児童期を見通して必要な体験をまとめるとともに、学びが豊かになるための援助や環境の在り方を明らかにする。その際、「人とかかわる体験」「ものとかかわる体験」という二つの軸でまとめていく。「人とかかわる体験」については、これまでの研究成果である「協同して遊ぶようになる過程」<sup>1</sup>をそのまま生かし、「ものとかかわる体験」については、平成26年7月の全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会研究集会(熊本大会)における事例検討から導いたものである。

また、「学びの芽生え」である幼児期から、次第に「自覚的な学び」となる児童期へつながる流れを見出すために、その時期に必要な体験を「思考力」「言葉」「感性・表現力」という三つの視点<sup>2</sup>で考えた。以下の表に示すものは、遊びを通じた総合的な指導を充実させていくための道筋を示すものとなる。

ここで示した各期は、幼児一人一人の発達の状況や学級集団の育ち、経験の積み重ね方によって、その前後の姿も見られることに留意する必要がある。そして幼児期の育ちを基盤として、児童期へと接続していくようにすることが重要である。



1 全国国立大学法人附属学校連盟幼稚園部会 平成21年度 文部科学省委託事業「幼児教育の改善・充実調査研究」幼稚園における教育課程上の諸課題に対応した実践的調査研究「協同して遊ぶことに関する指導の在り方」平成22年3月  
 2 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」平成22年11月



# 第Ⅰ期 (3歳児入園～4歳児前半)

## 初めての集団生活の中で様々な環境と出会う時期

### 人とかがかわる体験

- 同じ場で見たり触れたり行為を真似したりする
- 場を共有し、つながり合う気分を味わう
- イメージの世界に浸り、感情を共有する
- 友達の存在を、好意を持って受け入れようとする
- 友達のしていることを感じながら、個々の遊びを楽しむ

### ものとかかわる体験

- 安心して自分の気持ちや思いを表し、言葉や動きで伝えようとする(感性・言葉)
- 集団生活の中で、言葉を交わす楽しさや必要な言葉があることを知る(言葉)

- ものを持ったり、見立てたりして遊ぶ楽しさや面白さを感じる(感性・表現力・思考力)
- 全身で素材の感触を味わって遊ぶ(感性・表現力・思考力)
- 身近な自然に自分なりの興味や関心を持ってかかわる(思考力)

- 気に入った遊びを心行くまで繰り返し楽しむ(感性・表現力)
- 思い切り身体を動かす心地良さを感じる(感性・表現力)

事例  
1

事例  
2

事例  
3

事例  
4

事例  
5

事例  
6

事例  
1

「お顔はやわらかかったの」(3歳児 5月)

### 心が動くものとの出会い

A児はオタマジャクシすくいを試み、何とかオタマジャクシを手でつかんだ。A児の思いを受け止めた教師は、そのことを母親に伝えた。翌日、「お顔はやわらかかったのと教えてくれました」と連絡がきた。



事例  
3

「♪あめあめ ふれふれ」(3歳児 6月)

### ものを持つことで安心する

塗り絵の傘を切って、棒をテープで貼り付けると、喜んで持ち歩く。持って園庭に出ていったり、他児と同じものを持って歩いたり、雨が降っているつもりになったりして、ものを持つことで安心して過ごす。



事例  
5

「先生、オオカミになって！」(3歳児 11月)

### 心行くまで繰り返す

オオカミとコヤギのお話を楽しみ、教師がお面を用意したことがきっかけで、コヤギになって動くことを楽しんだ。コヤギになって、おうちごっこや、鬼ごっこなど、なったつもりで遊ぶことを繰り返し楽しんだ。





## この期の特徴

- 初めて出会う人やもの、出来事などに対して、不安な気持ちと新鮮な関心を持つ。
- 幼児一人一人が自分のペースで行動する。
- 様々なことを身体の諸感覚を通して捉え行動することが多いので、多様な感情を共有することが幼児一人一人の行動する力を生み出す。
- 行為を模倣したり新たな方法を知ったりしながら、自分の世界を豊かなものにしていく。

### 事例 2

#### 「また作ってくるね」(4歳児 5月)

##### 言葉を受け止めてもらえる楽しさ

電車に興味があるA児とB児、お客役になったC児が発する言葉を教師は受け止め、反応する。3人の幼児は教師の言葉でつながり、言葉を交わし、かかわりを楽しんだ。



### 事例 4

#### 「いくよー！」(3歳児 5月)

##### 身近な自然とのかかわりから心を開く

A児は根っこを手掛かりに急斜面を登った。必死に登ったことが達成感となり、それを教師がタイミングよく受け止めたことから、思い掛けずA児の心が開いていった。



### 事例 6

#### 「先生、タッチ！」(3歳児 5月)

##### 身体が動く心地良さ

少しずつ園生活にも慣れて安心して過ごせるようになり、自分達で走り出した。教師が手を広げて待っている場所が起点となり、走っては教師とハイタッチをし、また走りに行く。ひたすら走り回った。



## 指導のポイント

- 集団で生活することへの安心感が持てるように生活の流れに配慮し、家庭的な雰囲気が感じられるようにしていく。
- 安定した園生活の中で、ありのままの自分を発揮できるように幼児一人一人の思いを十分に受け止めるとともに、自分のしたいことがじっくり楽しめるような時間や空間を保障する。
- 身近な自然や様々な素材に触れ、自分なりにものとかかわれるよう、見守っていく。
- 教師も、共に楽しみながら、幼児が心を弾ませ、思わず身体を動かし、遊んでみたくなるような環境を構成していく。
- 友達とつながる気分を味わえるように、教師も一緒に幼児の行為を模倣したり、動きのリズムを合わせたりする。
- 自分の思いが通じる喜びが味わえるように、教師は幼児の思いに添いながら共感したり、身体や言葉でのやりとりの仕方を知らせるモデルとなったりしていく。





# 第Ⅱ期 (3歳児後半～5歳児前半)

## 遊びが充実し自己を発揮する時期

### 人とかかわる体験

- 場やものを共有し、友達とかかわって遊ぶ楽しさを知る
- イメージや考えを伝え合い、表現する楽しさを味わう
- 葛藤を乗り越え、友達と一緒に遊びを作り出す
- 友達と刺激し合いながら、自分の世界を広げる
- 体験を深め、学級の友達と遊びの楽しさを共有する

### ものとかかわる体験

- 自分がしたことや思ったことを話そうとし、相手の話を聞こうとする(言葉)
- 遊びを進めながら、友達と思いや考えを出し合う(言葉)
- ものの色や形、性質などに関心を持ち、遊びを楽しむために必要なものを作ったり、探したり、試したりする(思考力)
- 身近な自然やものにかかわり興味や関心を広げ、様々なことに気付いたり、驚いたり、不思議さを感じたりする(思考力)
- 興味や関心を持ったことに没頭して遊び込む(感性・表現力)
- 好きな遊びに繰り返し取り組み、自分なりの表現を楽しむ(感性・表現力)

事例  
7

事例  
8

事例  
9

事例  
10

事例  
11

事例  
12

事例  
7

「どこが悪いんですか?」(3歳児 12月)

### 気の合う友達と会話をする楽しさ

救急セットやマークのついた面などを使い医者になりきって楽しむ中で、友達と同じものを使ったり、場を整えたりすることで心がつながりやすくなった。患者役の教師を媒介として、友達と言葉を交わし楽しく遊んだ。

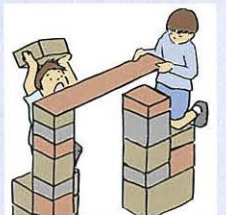


事例  
9

「同じ高さにせな」(4歳児 6月)

### 試行錯誤のおもしろさ

中型箱積み木で身長よりも高いトンネル状の基地を作りたい。柱の高さが左右違っているのを、何とか確かめながら適した積み木を選んでいった。予想通りの基地になると喜び、トンネルを何度もくぐっていた。

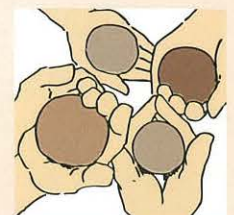


事例  
11

「今日も泥団子、作りたい」(4歳児 11月)

### 没頭して遊び込む

光る泥団子を作りたくてやり始めるが、思うようにいかない。やりたくてもできないもどかしさを、友達や教師に手伝ってもらいながら諦めずに取り組み続け、乗り越えていった。





## この期の特徴

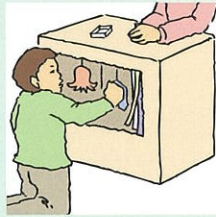
- 興味を持ち、好奇心を抱いたものには繰り返しかかわり、もっと面白くしたいと考えたり、試したり、工夫したりしながら、自分らしさを発揮していく。
- 友達のしていることに関心を持ち、同じことを一緒に楽しみたいという気持ちが生まれ、他者とのかかわりが活発になる。

### 事例 8

「もっと泳いでいるようにしたい！」(4歳児 11月)

#### 思いや考えを出し合う

水族館ごっこをする中で「タコが泳いでいるようにしたい」というA児の思いが出てきた。教師が仲介しながら、友達と考えを出し合い、ダンボールやテグスを使って思いを表現する。

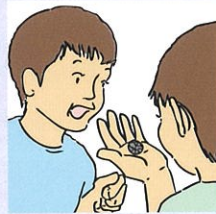


### 事例 10

「ダンゴムシの赤ちゃんが生まれたよ」(5歳児 6月)

#### 身近な自然に触れる中で感じる不思議さ

ダンゴムシを捕まえ、調べたり、観察したり、歩かせたりと大切にしていたが、死なせてしまう。ある日A児の手のひらの上でダンゴムシの赤ちゃんが生まれた。A児はその感動を伝えに来た。

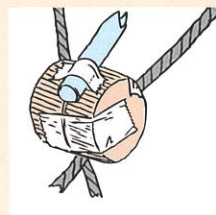


### 事例 12

「これが鳴ったの？」(3歳児 11月)

#### 自分なりの表現を楽しむ

避難訓練の時に笛に興味を持ち、それを真似て、空き箱で笛作りをする。自分で作った笛を満足そうに首から掛けた後、ペットボトルのキャップやストローで吹く部分を作る、音を楽しむなど、自分なりに表現の仕方を考え、楽しんだ。



## 指導のポイント

- それぞれの幼児が自分の興味や関心を持ったことに繰り返しかかわるために、遊びを支えたり、言葉掛けをしたりする。
- 友達と楽しく遊べるように幼児同士をつなぐ材料や道具、空間の構成などの環境を工夫し、遊びの中で言葉を媒介としてイメージを共有していけるように橋渡しをする。
- 友達の様々な考えを聞いたり、思いに気付いたりする中で新たな視点を見出していけるように、いざこざや葛藤の場面を大切にする。
- みんなの中の自分が感じられるように、体験が共有されていくような状況を作る。
- 話したくなるように、幼児のつぶやきや発話を受け止めたり、言葉にしたことで友達とつながった感覚に共感したりする。
- 遊びを作り出す楽しさを味わいながら、繰り返し取り組めるように、アイデアを提供したり、友達の遊ぶ様子から刺激を得られるようにしたりする。
- 遊びの中で様々な素材・材料・道具に出会い、それらを使って繰り返し試すことができるように、十分な時間を保障する。
- 興味や関心を広げるために、幼児の気付きを受け止めたり、新たな興味が生まれるきっかけを作ったりする。
- 自分がイメージしたものを作ったり、見立てたり、なりきったりして遊べるように、様々な素材や材料に十分かわれるようにする。



# 第Ⅳ期 (5歳児後半)

人間関係が深まり学び合いが可能となる時期

人とかかわる体験

- 目的を共有し、友達と相談しながら遊びを進める
- 新しいアイデアや遊びのルールを生み出す
- グループや学級の中で、役割を意識して取り組む
- 友達の良さや持ち味を感じながら、目的を実現し達成感を味わう
- 様々な人とかかわりの中で刺激を受けながら、自分の見方や考えを広げる

ものとかかわる体験

- 思ったことや考えたことを相手に分かるように話すとともに、気を付けて人の話を聞く(言葉)
- 考えを伝え合ったり、相談したりしながら遊びや生活を進める(言葉)
- 数量や文字に対して興味や関心を持ち、進んで遊びに使う(言葉)
- 身近な事象とかかわる中で、変化、仕組み、法則性などについて気付くようになる(思考力)
- 地域や社会生活の中で興味や関心を持ったことを遊びに取り入れ、より本物らしく再現できるように追究していく(思考力)
- 友達と共通の目的や見通しを持ち、思いを実現するために調べたり工夫したりする(思考力)
- 一人ではできないこと、簡単には達成できないことにも挑戦し、充実感を味わったり、ルールのある遊びを楽しんだりする(感性・表現力)
- 友達と探究する中で、多様な感情体験をしながら、やり遂げた喜びを感じる(感性・表現力)

事例 14①

事例 13②

事例 13①

事例 13③

事例 14②

事例 14④

事例 13④

事例 14③

## 事例13 「武将ごっこ」(5歳児 9月～2月)

### 事例 13① 「歴史や武将への関心」(9月)

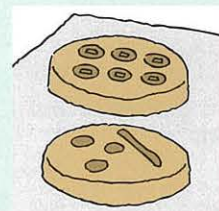
#### 地域や生活の中で興味を持ったことを追究する

地域の史跡やイベントから歴史を身近に感じる中で、武将や城に興味を持ち、本物らしく再現して遊ぶ。

### 事例 13② 「おやつで食べた家紋クッキー」(11月)

#### 家紋という記号とその意味に出会う

おやつの時間に家紋クッキーを食べたことから、家紋や武将について学級全体に興味や関心が広がった。



### 事例 13③ 「武将になりたい」(1～2月)

#### イメージを広げ、本物らしさを追究する

A児が始めた兜作り。他の幼児にも波及し、鎧、旗とどんどん広がって、本や資料を参考に工夫して作った。



### 事例 13④ 「お楽しみ発表会で発表したい」(2月)

#### 目的意識が芽生え、仲間と実現し達成感を味わう

自分のやりたいことを実現しながら、友達と同じ目的に向かって探究する中で、いろいろな感情や課題を乗り越えて、武将になって発表することを実現させた。



## この期の特徴

- 互いに主張し合いながら、関係を深める。
- 意欲や見通しを持ち、自分達で遊びや生活を作り出す。
- 遊びが充実し、興味や関心が広がり深まる。
- 役割意識を持って行動する。
- 協同的な活動を通して、友達の良さに気づき、様々な自分と出会う。
- 小学校に憧れや期待を持つ。



## 事例14 『ほしつきまつり』に向かうまで(5歳児 10月~11月)

### 事例14① 「ひまわりの迷路を作りたい」(10月)

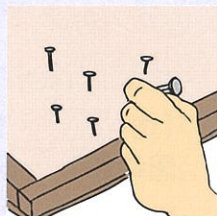
#### 友達の思いを聞き、相談しながら遊びを進める

A児のやりたい遊びを聞きながら、迷路のコースや道を相談して、自分達で作り上げていく。

### 事例14② 「ビー玉ゲームを作りたい」(11月)

#### 小学生の活動に刺激を受ける

ビー玉を転がして遊び、落ちてくるスピードや、当たる角度、跳ね返り方などを何度も試しながら、工夫してコリントゲームを作っていく。



### 事例14③ 「後ろに行けた！」(11月)

#### 友達に励まされ、何度も挑戦し満足感を味わう

友達と一緒に遊ぶ中で、次にやりたい自分の目的が生まれてくる。少し難しいことに繰り返し挑戦し、できたことを互いに認め合っていた。



### 事例14④ 「私はお金をつくる」(11月)

#### 思いを実現するために調べたり工夫したりする

日頃の遊びを学級で紹介することから、遊園地のようなイメージで「ほしつきまつり」をみんなですることになる。自分ができることを考え、作り方や大きさ、色などを、小学生に聞いて調べたり工夫したりしながら、取り組んでいった。



## 指導のポイント

- 幼児が互いの思いや考えに気づき調整していけるように、一人一人が自分の心と向き合っていて、考えたり相談したりする状況を作る。
- 興味を持って想像しながら友達の話の聞けるように、降園前や共通体験後に学級で聞き合う時間を設ける。
- 幼児の探究心を引き出していけるように、多様な素材・材料・道具を吟味して準備し、これまでの経験を生かして遊びに必要なものを自分達で選択したり、文字や数量を活用したり、試行錯誤する時間を十分保障したりしていく。
- 幼児の身近な環境とのかかわりが深まるように、それぞれの発見や工夫を伝え合ったり、一緒に調べたり、教え合ったりする状況を作っていく。
- 一人では得られない遊びの面白さを仲間とともに味わえるように、それぞれの活動が互いに関連し合って発展していくような保育を構想していく。
- 共通の目的や見通しに向かって、自己課題を見出し、友達と一緒にやり遂げた達成感・満足感を味わえるように、挑戦的な活動が展開したり、協力したりする状況を作っていく。
- 幼児一人一人の良さや持ち味を發揮できるように、幼児同士をつなぎ、互いに認め合い支え合う生き生きとした関係を育む学級の雰囲気を作る。



# 児童期 (小学校1～2年生)

新しい環境に適応し人やものとのかわりを通して  
「自覚的な学び」へと移行する時期

## 人とかわる体験

- 仲間意識や帰属意識を持ちながら友達とめあてを共有して活動する
- 集団生活の決まりの大切さを認識し、学級生活が楽しくなるように創意工夫する
- 学級の中で役割を分担し、全員で協力して目標の実現を目指す
- 友達と一緒に活動する中で互いを理解し、仲良く助け合い、集団で活動する楽しさを味わう
- 互いの思いや考えを伝え合うことで自分の考えや集団の考えを深める

## ものとかわる体験

- 身近なことや経験したことについて詳しく話したり、大事なことに注意して聞いたりする(言葉)
- 気づきや発見を記録・整理して、まとめた文章を書く(言葉・文字)
- 興味のある読み物を読んだり、疑問に思ったことを本で調べたりする(言葉・文字)

- 身近な人々や社会、自然とのかわりを深めていくことで、対象への気づきを高める(思考力)
- 経験したことや身に付けたことを活用したり、友達の見方や考え方を取り入れたりしながら課題を解決していく(思考力)
- 自分達の遊びや学級生活が豊かになるように工夫する(思考力)
- 科学的な思考を深め、意欲的に学習する(思考力)

- 学級の仲間と一緒に取り組む楽しさやわかる喜びを味わう(感性・表現力)
- 感じたことや想像したことなどを言葉や絵、動作、劇化などの方法で進んで工夫して表現する(感性・表現力)

事例  
15

事例  
15

「毎日時計を見ていたら」(1年生 11月:算数)

気付いたことを言葉で伝えたり、聞いたりする  
繰り返すことで思考を深める

日常生活の中で、意識的に時計を見ることを繰り返す中で、時計の「数字」や「長針・短針」について関心が高まってきた。時計について気付いたことを発表し合った後、時刻を読むという算数の学習につながった。

事例  
16

事例  
16

「紙とんぼ作り」(1年生 5月:学級活動)

集団で活動する楽しさを実感する  
「比べる」「繰り返す」「試す」ことで科学的  
思考を深める  
知らせたいことを書いて担任の教師との交流  
を楽しむ

何度も自分と友達の紙とんぼを比べたり改良したりして、児童一人一人が高く飛ばすための工夫を重ねる。児童は教え合ったり競い合ったりしながら意欲を高め、紙とんぼ大会を開催した。それは児童の心に残り自覚的な表現活動につながった。

事例  
17

事例  
17

「風車で風探し」(2年生 9月:生活科)

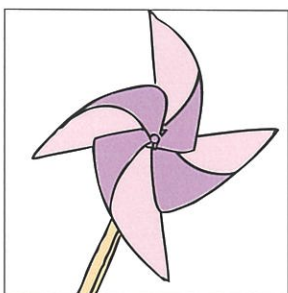
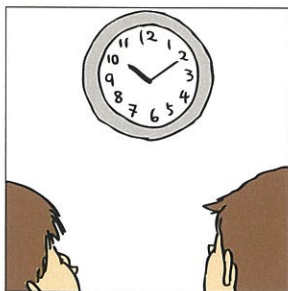
個別の事象についての気づきがつながって  
気づきの質を高める  
友達の存在が一人では見出せなかった新たな  
気づきを生む  
学級の仲間と一緒に学ぶと楽しい

友達と一緒に具体的な体験(風車回し)をすることで、回った場所が高い所であるという共通点があることに気付いたり、ものが速く動くとき風の流れることができることを確かめたりするなど、学級の仲間と楽しく学んだ。



## この期の特徴

- 自分の気持ちを調整することができ、集団の一員として決まりを守ろうとする。
- 互いの良さを認め合い、役割を分担しながら友達と一緒に活動する楽しさや充実感を味わう。
- 感性・情緒の基盤であるとともに、思考したり考えを伝え合ったりする手段として言語を使い、友達とかわり合って学習する。
- 具体的な活動や具体物を通して思考し、自分の考えを様々な方法で表現する。
- 与えられた課題を自分の課題として受け止め、これまでに学んだことや新たに学んだことを活用し、課題を解決していく。



## 指導のポイント

- 幼児期に経験してきたことを理解した上で、児童一人一人の興味や関心を大事にしながら生活や学習の場を工夫したり、ペースに配慮し活動時間の確保をしたりする。

- 学習の意欲を高めるために、生活と結び付く必要感のある学習課題を設定し、導入を工夫したり、体験的な学習を取り入れたりする。

- 自分の考えを進んで話したり、友達の話に関心を持って聞き、自分の考えと比べたりできるように、学習の決まりを認識させるとともに、児童一人一人の気付きや考えを受け止めながら、安心して話せる学級の雰囲気を作る。

- 規則性や法則性を見付けたり、比較したり、分類したり、全体を捉えたり、関連させたり、予想したりして考えることができるように、興味や関心、探究心が呼び起こされるような事象との出会いができるような環境を整える。

- 新しいことに気付いたり考えを深めたりできるように、心が動く体験ができる場、繰り返し試せる場、友達とかわり合いながら学習する場等を設定する。

- 学び合う喜びを感じられるように、児童一人一人の気付きや考えの良さを認め合ったり、集団で取り組んだことや友達と一緒に解決したことの意義を伝えたりする。

- 表現する楽しさを感じて、話したり書いたり、動作、劇等様々な方法で表現したくなるよう心が動く体験の場を設定する。更に、自分の思いや考えがよく伝わるように正したり、工夫したりできるように、表現の良さを認めたり、より良くなるための助言や支援をしたりする。



# 幼児の体験の関連性を捉える

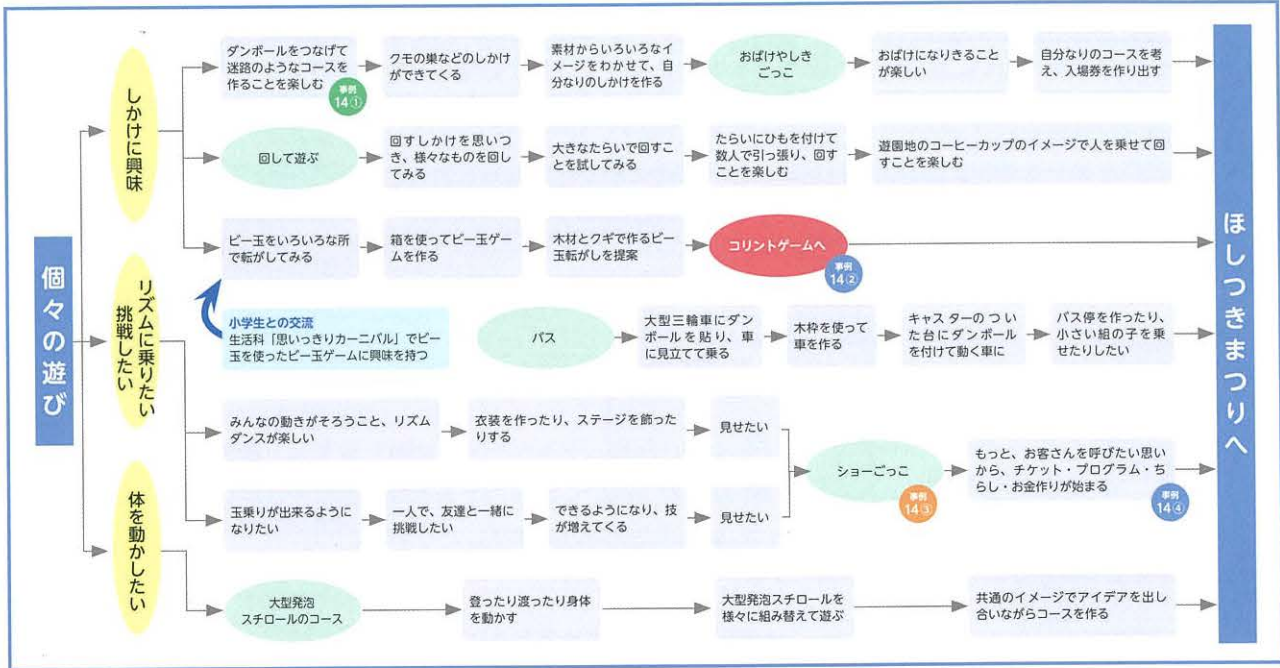
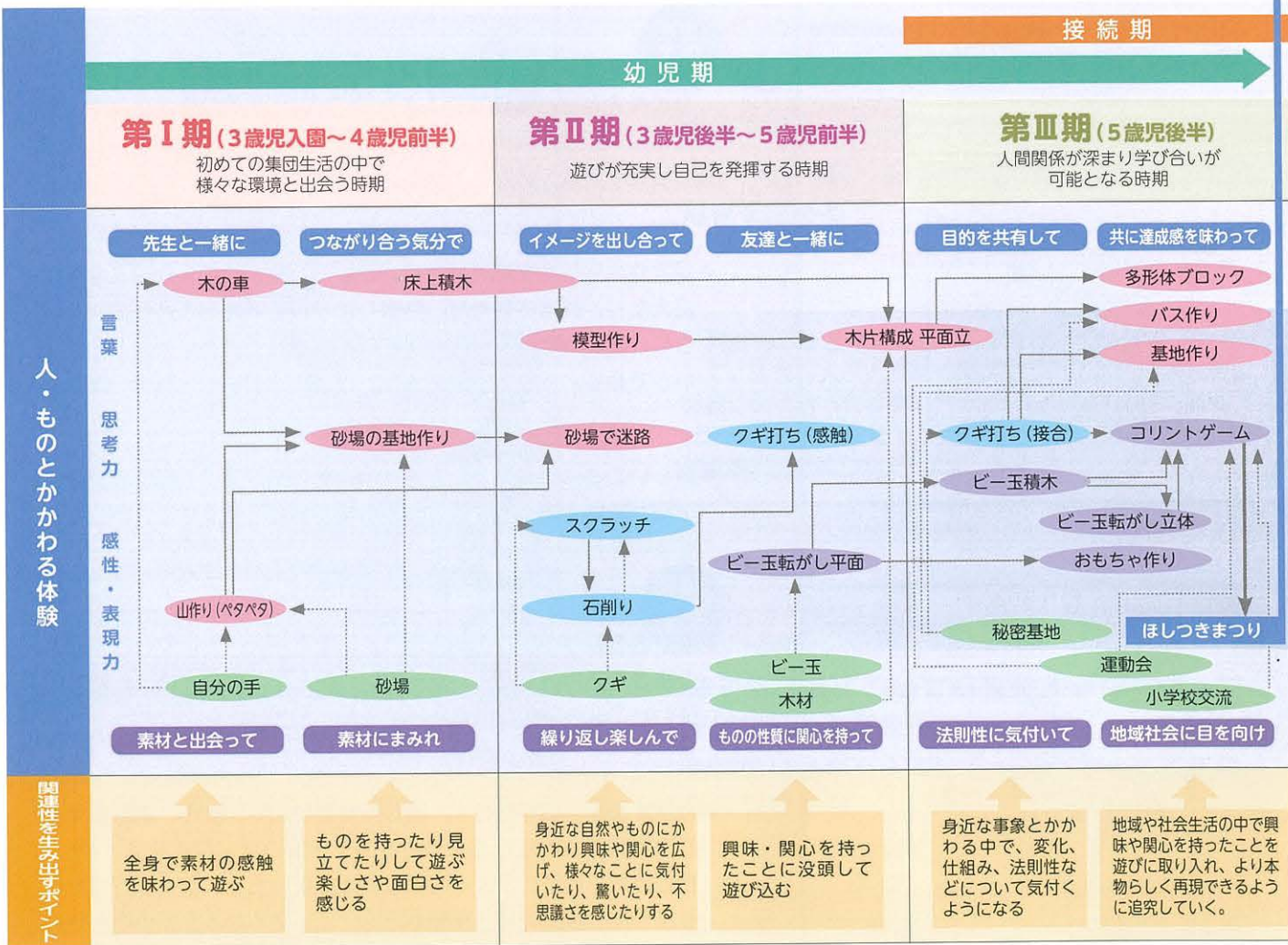


図1: 「ほしつきまつり」に向かうまで



## 学びの芽生え

図2: 「木片とクギとビーズ」とかわる遊びの関連図



事例14『「ほしつきまつり」に向かうまで』（P8）を取り上げ、どのような体験の関連性が見られるか、図示して説明する。

図1は、様々な取り組みが学級全体での『ほしつきまつり』に向かっていく様子を表している。

図2は、コリントゲームの遊びまでの流れに注目し、過去からの体験の関連を表した。

図3は、参加者の一人であるF児の育ちに注目した図である。螺旋状に取り巻いているのは、「人」「もの」という身近な体験であり、それらが関連し合い「経験」の育ちとなって蓄積される様子を表している。第Ⅰ期では、その後の遊びの基盤となる経験を、第Ⅱ期では遊びの体験の広がり、第Ⅲ期では体験の深まりを表した。図3【集団としての育ち】は一人一人の興味や関心が互いに刺激し合いながら、協同性を育む中で、幼児同士で体験の関連性が織りなしかう様子を表している。

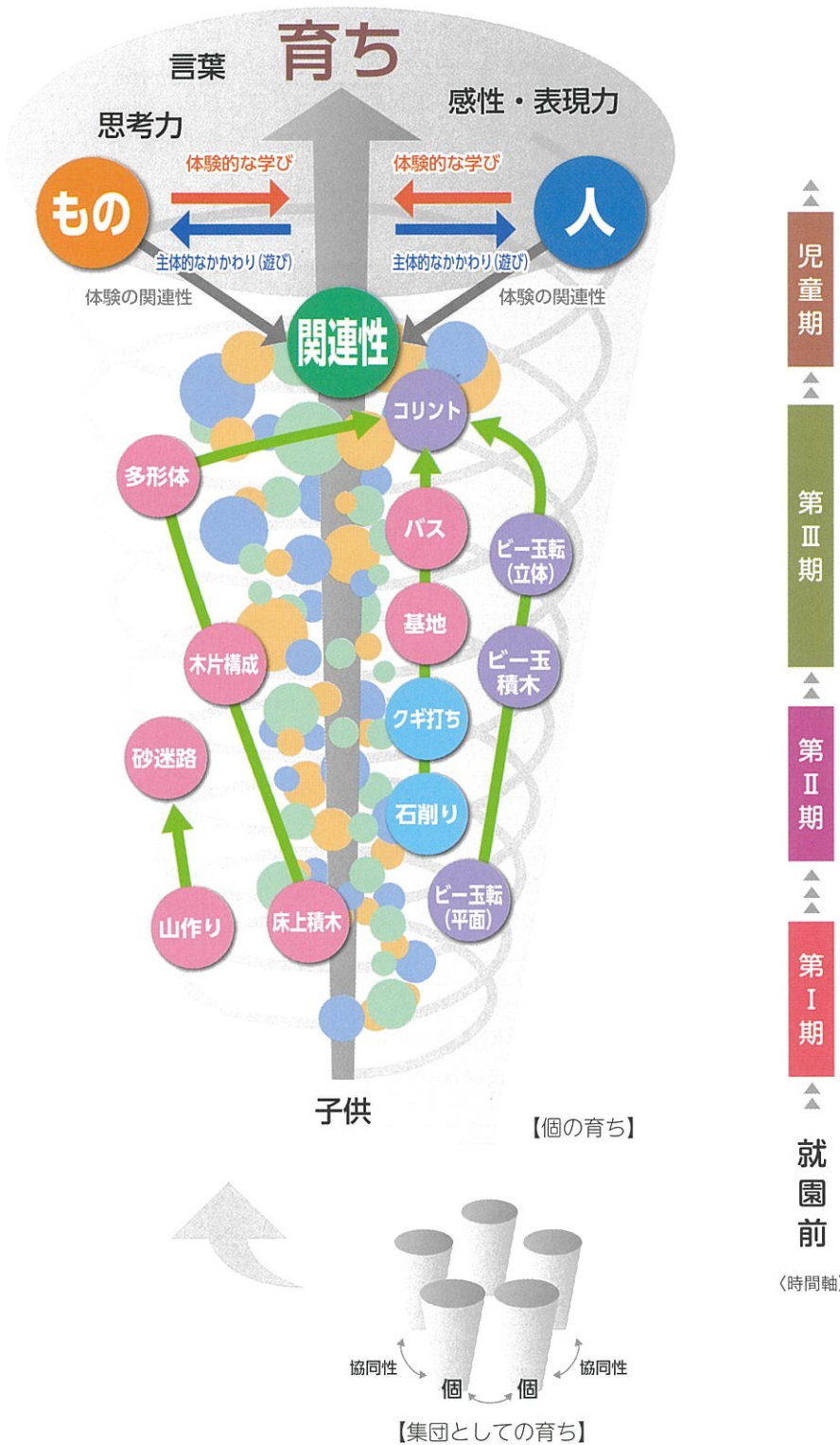
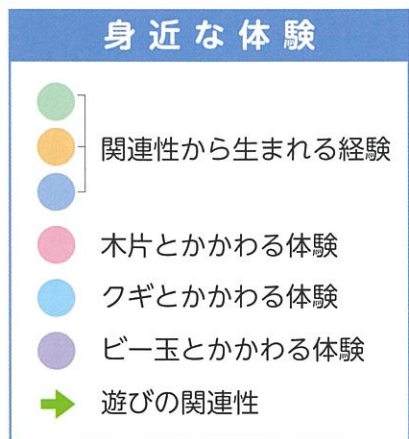


図3：F児の「木片とクギとビー玉」とかかわる遊びの関連図



## 幼児の体験の関連性を捉える

### ▶ 体験が関連するとはどのようなことか

～幼児の育ちや体験を通した学びをつなげて見ていくための視点～

- (1) その後の育ちの基盤となる体験
- (2) 周囲の環境を刺激として取り入れ、自分の体験が広がる
- (3) 過去の体験が基となり、自分の体験が深まる
- (4) 一人の興味や関心が周囲の幼児へとつながる
- (5) 個人やグループの遊びが相互につながり合い、体験を共有する
- (6) 積み重ねた体験を組み合わせて活用する



### ▶ 体験が関連していく保育の重要性とは

幼児の主体性を育み、教師の意図的な教育活動を具体化していく保育を目指すため

### ▶ 関連性のある保育を構築するために

～教師が留意すべきこと～

#### 1. 幼児の体験を理解する

- 幼児一人一人がどのような場面で心を動かしているのか、どのような興味や関心を持っているのかを捉えていく
- 幼児が体験をつなげていく姿を教師が意識して捉え、過去、現在、未来をつなげて見る視点を持つ
- 幼児同士の体験が関連する関係性について理解する

#### 2. 環境の構成の工夫と教師の教材研究

##### (1) 環境の構成の工夫

- 幼児一人一人が心を動かし、その幼児ならではの興味や関心に合わせた遊びに取り組んでいけるような環境を構成していく
- 幼児の活動の流れや心の動きに即して、遊びが関連してつながっていくように、環境を再構成し続けていく
- 発達や季節に応じた環境の構成をしていく

##### (2) 教師の教材研究

- 興味や関心が次へつながるような出会いを環境の中に準備する
- 幼児の主体性を発揮させる教材を選択・精選していく

#### 3. 指導計画の立案

- 幼児の発達の評価と指導の評価を生かし、一人一人の興味や関心に合わせるゆとりある計画を立案する
- 園の文化を伝承した遊びや行事と、これまでの幼児達の遊びや生活の流れを相互に生かしながら立案する
- 幼稚園入園から修了までを見通した流れのある生活を作る



# 平成27年度 全国国立大学附属幼稚園研究テーマ等一覧

平成27年3月現在

幼稚園名	研究テーマ	公開研究会等の期日
1 北海道教育大学 附属旭川幼稚園	幼児の内面に向き合う(2年次) —葛藤する子どもの思いとその援助—	27.10. 3(土)
2 北海道教育大学 附属函館幼稚園	円滑な幼小接続カリキュラムの制作 —小学校0学年を意識して—	27年9月下旬 ～11月上旬
3 弘前大学教育学部 附属幼稚園	協同的な学びを考える —遊びが生まれる環境の工夫—	27. 6.19(金)
4 岩手大学教育学部 附属幼稚園	子どもの体験のつながりを大切に した保育	27.10.31(土)
5 宮城教育大学 附属幼稚園	子どもが喜んで体を動かす環境(仮)	27.10.28(水)
6 秋田大学教育文化学部 附属幼稚園	3年保育の教育課程の再考	27. 6.26(金)
7 山形大学 附属幼稚園	豊かな遊びとことば	27. 6. 5(金)
8 福島大学 附属幼稚園	ひとりひとりのよさを生かす保育を めざして —保育の記録から学ぶ—	27. 5.22(金) 27. 5.23(土) 27. 7.31(金)
9 茨城大学教育学部 附属幼稚園	子どもと共に遊びをつくる(3年次) —自然との触れ合いを通して—	27.11.26(木)
10 宇都宮大学教育学部 附属幼稚園	豊かな暮らしを創造する幼稚園の環境 —もので広がる私の世界—	27.10.31(土)
11 群馬大学教育学部 附属幼稚園	自分を出さず面白く?!	27. 6. 4(木) 27.10.24(土)
12 埼玉大学教育学部 附属幼稚園	質の高い保育とは何かを問い直す (3年次) —教育課程を見直す—	27. 6.17(水)
13 千葉大学教育学部 附属幼稚園	子どもたちの“物語”を豊かにする環 境(2年次)	27.10.31(土)
14 東京学芸大学 附属幼稚園小金井園舎	試行錯誤する子どもと教師(仮)	27.11.21(土)
東京学芸大学 附属幼稚園竹早園舎	竹早地区附属小学校(幼小連携研究) 主体性を育む幼小連携の保育・活動・授業の創造	28. 1.22(金)
15 お茶の水女子大学 附属幼稚園	探究力・活用力が発揮される生活 (4年次)	27. 6.26(金) 28. 2. 5(金)
16 山梨大学教育人間 科学部 附属幼稚園	子どもが主体となる保育(2年次)	27. 6.20(土) 27.12. 5(土)
17 新潟大学教育学部 附属幼稚園	社会的な知性を培う —幼・小・中—貴教育カリキュラムの開発—	27. 5.27(水)
18 富山大学人間発達 科学部 附属幼稚園	子どもの体験を支える —体験をつなぐ環境の構成を探る—	27. 6.18(木)
19 金沢大学人間社 会学域 学校教育 学類附属幼稚園	幼児期の学びを探る(1年次)	27. 6.12(金)
20 福井大学教育地域 科学部 附属幼稚園	学びの芽生えを育む —自分から遊びたくなる環境づくり—	27.11. 7(土)
21 信州大学教育学部 附属幼稚園	遊びにうちこむ子ども	27.10.17(土)
22 上越教育大学 附属幼稚園	遊び込む子ども —学びの基盤に着目して—	27.10. 7(水)
23 静岡大学教育学部 附属幼稚園	豊かな自然環境を活かした保育	27.11.11(水)
24 愛知教育大学 附属幼稚園	「学びと育ち」の連続性を見通した 幼児期の教育を考える(第3年次) —学びの連続性を支える力に目を向けて(仮)—	27.11.12(木)
25 三重大学教育学部 附属幼稚園	夢中になって遊ぶ姿を支える教師の援助 —体を動かして遊ぶ活動—(継続)	27.11.14(土)
26 滋賀大学教育学部 附属幼稚園	わくわくの創造 —モノと向き合うことを基盤として—	27.11.13(金)
27 京都教育大学 附属幼稚園	生き物と共に育つ保育のあり方 —環境構成・教師の援助に着目して—	28年2月下旬 予定

幼稚園名	研究テーマ	公開研究会等の期日
28 大阪教育大学 附属幼稚園	「きく力」を育てる —一人の思いを感じられる子どもをめ ざして—(3年次)	27.11. 7(土) 28. 1.30(土)
29 兵庫教育大学 附属幼稚園	協同性を育て道徳性・規範意識の芽 生えを培う指導の在り方	27. 5.27(水) 27. 8. 3(月) 27.12. 5(土)
30 神戸大学 附属幼稚園	幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子 どもの学びに着目した、幼児教育と小学校 教育9年間を一体としてとらえた教育課程 の大綱となる「初等教育要領」の開発 <公開研究会テーマ>子どもにとっての遊 びの意味を問い直す	27. 7.31(金)
31 奈良教育大学 附属幼稚園	幼児期に必要な「からだ力」を育む —「からだ力」拡がる可能性を求めて—	27.11. 7(土)
32 奈良女子大学 附属幼稚園	幼小一貫教育において生活と学習をつなぎ、 同年齢や異年齢で協同的に研究を深め、多 様な能力や個性的な才能を引き出す「生活 学習力」を育成する教育課程の研究開発	未定
33 鳥取大学 附属幼稚園	学びをつなぐカリキュラムの創造Ⅱ	27.10.31(土)
34 島根大学教育学部 附属幼稚園	学び続ける子どもの育成(2年次)	27.11.18(水)
35 岡山大学教育学部 附属幼稚園	考える力を育てることばの教育 —3つの「ことばの学び」に支えられた一貫 教育カリキュラムの構築を目指して—(仮)	27.11. 7(土)
36 広島大学 附属幼稚園	周囲の様々な環境に好奇心や探究心 をもって働きかける子どもを育む —幼児期におけるE S D(持続可能 な開発のための教育)を考える—	27.11.12(木)
37 広島大学 附属三原幼稚園	社会的自立の基礎となる能力・態度 及び価値観の体系的な育成のための 幼小中一貫の新領域による自己開発 型教育の研究開発	27.12. 4(金) 27.12. 5(土)
38 山口大学教育学部 附属幼稚園	友だちとかかわる力を育む	27.11. 5(木)
39 鳴門教育大学 附属幼稚園	豊かな遊遊財を創り出すために	27.11.21(土)
40 香川大学教育学部 附属幼稚園坂出園舎	つながる子どもたちの生活を支える	28. 1.29(金)
香川大学教育学部 附属幼稚園高松園舎	未定	未定
41 愛媛大学教育学部 附属幼稚園	子どもの豊かな学びを支える —発達に即した援助の在り方—	28. 2. 5(金)
42 高知大学教育学部 附属幼稚園	よく考えて行動する子どもを育むた めの教育課程	28.2月中 (4月のHPに掲載)
43 福岡教育大学 附属幼稚園	言葉で人とつながり合う幼児を育て る	27.11月予定
44 佐賀大学文化教育 学部 附属幼稚園	自律性が育まれる保育	28. 2.21(日)
45 長崎大学教育学部 附属幼稚園	共感し合いながら友達とかかわり協 同して遊ぶ子どもを目指して	28. 1.23(土)
46 熊本大学教育学部 附属幼稚園	学びをつなぐ教育課程の創造(仮)	27.11.14(土)
47 大分大学教育福祉 科学部 附属幼稚園	子どもの育ちを支える保育環境 —園の自然環境から生まれる子ども の遊びを見つめて—	27. 6.27(土)
48 宮崎大学教育文化 学部 附属幼稚園	かかわる力を育てる援助の在り方 —一人一人の子どもを見つめて—(3年次)	28. 2. 5(金)
49 鹿児島大学教育 学部 附属幼稚園	協同性を育む保育の在り方Ⅲ —遊びにおける協同性の育ち—	27.12. 4(金)

イラスト：中野圭祐 作品：東京学芸大学附属幼稚園





本リーフレットは、文部科学省の幼児教育の改善・充実調査研究委託費による委託業務として、＜国立大学法人千葉大学・全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会＞が実施した平成26年度「幼児教育の改善・充実調査研究」の成果を取りまとめたものです。したがって、本リーフレットの複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

#### 発行

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

#### 事務局

千葉大学教育学部附属幼稚園

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 TEL・FAX 043-251-9001

e-mail.irisawa@faculty.chiba-u.jp